

## Asia Pacific HRM Congress

さて今回のレポートですが、2月1日から3日までインドのムンバイに行って参りました。今回のインドへの旅の目的は、アジア、ヨーロッパ、アラブ、アフリカ、アメリカなど世界60ヶ国から500名以上のHRプロフェッショナルが参加し、「The HR Professional as a Business Manager in the New Millennium」のタイトルで開催されたアジア最大級のHRカンファレンスにて、【2007年 Global HR Excellence Awards HR Leadership 部門】という賞を頂いてまいりました。そこで感じたことをちょっと書いてみたいと思います。

今まで、アジアの中でも、韓国、香港、シンガポール、マレーシアは何回も研修で訪れていたのですが、今回インドに初めて訪問して感じたことは3つです。

1. インドのエリートはちょっとすごい
2. インド人材市場はすごい
3. インド政府は、国家設立50周年ですごい

### 1. インドのエリートはちょっとすごい

インドの人事部、人材開発担当者は、といってもインドの大企業及びグローバル企業ですが、ヨーロッパとアメリカの両方で教育を受け、皆さん非常に流暢な英語を話すのです。インド英語を聞き慣れていた私にはちょっとビックリでした。また、担当者の高学歴に加えて、そのポジションの高さに驚きました。一般的に、日本では人事部は戦略的な位置に置かれていないように感じますが、インドの企業ではアメリカの企業と同じように（それ以上かもしれません）戦略的なポジションに置かれていました。

### 2. インド人材市場はすごい

滞在している間に、マンパワー、スタッフサービスなどのリクルートの会社から盛んに声をかけられました。

日本にも多くの方を直接輸出？していらっしゃるようです。日本にある外資系企業が中心でしたが、日本で人材を捜すよりはるかに簡単に人材を見つけることが出来るようです。ただ、インドでは、人材不足が続いていて、今後どのように良い人材を見つけ、雇用し、継続的にモチベーションを持って会社ではたらいてもらうかが重要になっているようです。社員の多くは、6ヶ月から20ヶ月程度で次の会社に移るようです。その要因の多くは給与だそうです。

### 3. インド政府は、国家設立50周年ですごい

これはちょっと言い過ぎかもしれませんが、私の参加した Asia Pacific HRM Congress は、インド政府もバックアップし、あのインフォシスやターターグループも協力していました。多くの政府関連の方も出席し、夜のパーティーでは、ファッションショーなども行われる華やかなものでした。参加費も3日間で500ドル（私は招待だったので払いませんでしたが）程度でインドの物価を考えるとかなり高額のものであったと思います。インド政府は人材開発に力を入れているということが、全体の雰囲気でも伝わってきましたし、カンファレンスには、インド出身の世界有数の企業トップを招いたり、インドの勢い、人材開発への強い思いが伝わってきました。

今後は、優秀な人材は、世界規模で奪い合いになるのだろうと予感させられます。来たるべき時代のためにも各組織では、現在の組織のさらなる強化と適正な雇用の維持と安定が、今後も重要となることでしょう。

熱田 二郎



Global HR Excellence Awards  
HR Leadership Award 受賞式



ムンバイの町並み

Asia Pacific HRM Congress HP : <http://www.asiapacifichrmcongress.com/>

株式会社フォーラムジャパン  
www.forum-japan.com

〒162-0065 東京都新宿区住吉町 8-23 富井ビル 2 階 Tel: 03-3350-0912 Fax: 03-3350-0937